日本ベントス学会からのお知らせ

今号から、運営委員会議事録等の詳細資料については、J-STAGE 上の電子付録掲載といたしました。以下に電子付録を掲載してあります。そちらもお目通しください (<https://doi.org/10.5179/benthos.75.91>)。

2020 年度日本ベントス学会第 1 回運営委員会

2020 年 6 月 27 日（土）に第 1 回運営委員会が Web 開催されました。庶務報告、2019 年度会計決算・監査報告および各委員会からの活動報告がなされました。また、Plankton and Benthos Research 誌および日本ベントス学会誌の投稿規定改定、学生発表賞の審査内規制定、自然環境保全委員会による要望書案、2020 年度奨励賞受賞者選考などについての審議が行われました。懸念事項として事務局から学会の財政についての報告があり、収支の改善に向けた様々な議論が成されました。

- ・電子付録 1_2020 年度第 1 回運営委員会_議事録
- ・電子付録 2_2019 年度会計報告（2020 年度第 1 回運営委員会資料）

2020 年度日本ベントス学会第 2 回運営委員会

2020 年 9 月 18 日（金）に第 1 回運営委員会が Web 開催されました。庶務報告、2019 年度会計決算・監査報告、各委員会からの活動報告が成されました。来年度の合同大会について、鹿児島での開催に向けた準備状況が報告され、会場は鹿児島大学郡元キャンパス、日程は 2021 年 9 月 18 日から 20 日を予定していることが示されました。また、学会創立 30 周年記念本の出版についても報告されました。学会規約および学会表彰細則の改定、和文誌論文の機関リポジトリ登録・公開、日本学術会議公開シンポジウムへの後援、日本ベントス学会誌の投稿規定改定（2021 年度からのページチャージ変更）、学生発表賞のありかた、自然環境保全委員会による要望書案などについての審議が行われました。2021 年度予算案については、審議を経た修正案が承認され、総会に諮ることとしました。関連して、出版費の抑制など収支の改善に向けた様々な議論が成されました。

- ・電子付録 3_2020 年度第 2 回運営委員会_議事録
- ・電子付録 4_2020 年度会計中間報告と 2021 年度予算案（第 2 回運営委員会資料）

2020 年度日本ベントス学会総会

2020 年 9 月 20 日（日）に 2020 年度日本ベントス学会総会が学会大会の Zoom システムを利用して Web 開催されました。庶務報告、2019 年度会計決算・監査報告および各種委員会からの活動報告が成されました。堤奨励賞選考委員長から、邊見由美会員と清家弘治会員への 2020 年度学会奨励賞授賞が報告されました。また、2020 年度残期予算案、2021 年度予算案、学会規約の改定および五嶋聖治名誉会員の推薦についての審議が行われ、Web 投票により承認されました。

- ・電子付録 5_2020 年度総会議事録

学会規約など

日本ベントス学会の学会規約や各種の細則については、学会 HP (<http://benthos-society.jp/newpage4.html>) もしくは電子付録をご覧ください。

- ・電子付録 6_日本ベントス学会規約

ベントス学会創立 30 周年記念本

「海岸動物の生態学入門—ベントスの多様性に学ぶ」が 9 月に出版されました。本記事の電子付録として「執筆顛末記」と「記念本のテーマ」も掲載していますので、あわせてご覧ください。本書の詳細については、同封チラシま

たは「海文堂出版」のHP (<http://www.kaibundo.jp/2020/09/80051/>) をご覧ください。本書は、ベントス学会員には著者割りで販売されます(定価 1800 円+税→1584 円)。学会員である旨付記頂き、hanbai@kaibundo.jp までお申し込みください。送料は出版社負担ですが、振込手数料はご負担ください。講義等で本教科書の図表を使用される際の遵守事項は以下です。よろしくお願いします。

1. スキャンして対面授業で使う、配付資料として印刷して受講生に配る→会員・非会員ともに許諾不要・無償

2. 本をスキャンして遠隔授業で使用する、使用者制限のあるサーバにアップロードする→非会員は許諾不要(所属機関が SARTRAS に登録している必要あり)・有償(コロナ禍対応で 2020 年度に限り SARTRAS の補償金は無償)、会員は許諾不要・無償

3. より精度の高い図版を使用したい→著者または出版社にお問い合わせください。会員の皆さんには、対面授業のスライド・ハンドアウトでの使用に限り、pdf ファイルを無償提供します。

- ・電子付録 7_30 周年記念本執筆顚末記
- ・電子付録 8_ベントス学会 30 周年記念本のテーマ

日本ベントス学会誌編集委員会からのお知らせ

出版費用削減のため、日本ベントス学会誌は当面年 1 回発行となる見込みです。ご理解のほど、よろしくお願いいたします。運営委員会での審議により、PBR 誌だけでなく日本ベントス学会誌についても印刷体の pdf ファイル(VoR)を機関リポジトリへ登録できることとなりました。登録時に必要な手続きについては学会 HP をご覧下さい(<http://benthos-society.jp/newpage2.html>)。今年度、投稿規定の 2 箇所を以下のように改訂しました。新ページチャージについては、2021 年 4 月 1 日以降に投稿された原稿から適用いたします。最新版の投稿規定は学会 HP もしくは電子付録をご覧ください。

旧「投稿論文の第一著者は正会員および個人の賛助会員に限る」

→新「投稿論文の第一著者あるいは責任著者は正会員および個人の賛助会員に限る」

旧「学会負担印刷ページの限度を原著論文 10 ページ、短報 4 ページ、総説 16 ページとし、これを超える分については 1 ページにつき 7,000 円を著者が負担するものとする」

→新「学会負担印刷ページの限度を原著論文 8 ページ、短報 4 ページ、総説 10 ページ、これを超える分については 1 ページにつき 10,000 円を著者が負担するものとする」

- ・電子付録 9_学会誌投稿規定

2020 年度日本ベントス学会奨励賞授賞者と授賞理由

邊見由美 氏

本応募者は、干潟の生態系におけるキーストーン種であるアナジャコ類、スナモグリ類、テッポウエビ類などの甲殻類を研究対象として、おもにハゼ類との共生関係に関する基礎的な生態学的知見を明らかにする研究を展開してきた。精力的な野外調査に加えて、実験室内における精妙な観察装置を駆使して定量的な行動観察にも成功している。

これらの研究成果は、本学会の *Plankton and Benthos Research* および日本ベントス学会誌で発表するとともに、*Journal of Experimental Marine Biology and Ecology*, *Journal of Crustacean Biology* などの国際誌から発表し、高い学術的な評価を受けている。また、本学会大会ならびに Asian Marine Biology Symposium (AMBS) において複数回にわたって自由集会の企画・運営にあたり、学会活動にも大きく貢献してきた。

これらの研究業績および学会活動を鑑みると、本学会の若手研究者として十分な実績を残しており、今後の研究の進展ならびに本学会の中核的な研究者としての成長が強く期待される。よって、ここに日本ベントス学会奨励賞を授与することとした。

清家弘治 氏

本応募者は、生痕解析等の地質学の技術を利用してエンドベントスの行動や生態を解き明かしてきたこと、その場も干潟から深海へと多様な海洋環境に展開し、さらに従来の巣穴型手法に X 線 CT スキャンを組み合わせた新技術を開発し、新しい知見を積み上げることで研究成果を蓄積してきた点が高く評価される。このような古生物学や地質学などをベースとしたベントスの生態に関する研究成果は、本学会で異色の輝きを放っている。

これらの研究成果は、*Plankton and Benthos Research* のほか、*Estuarine, Coastal and Shelf Science*, *Marine Biology* といった海洋生物学、ならびに *Geophysical Research Letters*, *Journal of Geophysical Research*, *Journal of Oceanography* などの地球科学・海洋学関係の学術雑誌より、多数の原著論文として公表されており、十分な業績を有している。また、第 1 回および第 2 回の AMBS, 日本ベントス学会・日本プランクトン学会合同大会においても 2005 年から 2016 年にかけて毎年のように発表を行った。本学会の事務局、学会誌の編集委員、HP の管理、若手の会の企画・運営な

ど本学会の活動に対する貢献も大きい。

以上の研究業績ならびに学会活動への貢献を高く評価するとともに、今後は若手会員から中堅会員の一人としてその立ち位置が移行していく時期にあたり、さらなる研究の進展と学会における若手会員への指導的な役割への寄与が期待されることから、日本ペントス学会奨励賞を授与する

こととした。

2020 年度日本ペントス学会奨励賞選考委員会
堤 裕昭（委員長）・大越健嗣・狩野泰則・木村妙子・
小島茂明・松政正俊・和田 哲